

霜月 愛南文芸

篠南川柳会

ほら吹きは根も葉もなくて口達者
 吉凶の狭間であえぐ高齢者
 神佛身勝手ばかり日々祈る
 知りたくて知りたくないの我が余命
 頭数ものをゆうのは選挙せん
 水玉がひかって今日も良い天気
 太い腹腫れちよるのかと孫が聞く
 今年も家の運営火の車
 経営者従業員を生き合せ

菊川俳句会

秋色の売物件や四角形
 久々の自転車重し秋暑し
 庭先に猿の歯型の太き栗
 足取りの同じ二人に秋の風
 秋深し束三センチ枕かな

はじめまして。赤ちゃん。

9月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

9月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	満年齢
-----	--------	-----

もつちゃん
 芝田 すみ子
 保美
 千代子
 木本 さつき
 安子
 ちずる

浅野勇一郎
 長田 高明
 長田千恵美
 小野山シマ子
 鶴川 裕子

さわらび短歌会

音量を二つ上げるや虫時雨
 台風過選んだペンキ空の青
 参道の椎の実拾う児の心
 天高し時代は巡る高御座

中川 一喜
 西川 和代
 村尾加都子
 安岡留美子

若き日の面影探す孫を抱き揺すりてあやす妻の姿に
 明けやらぬ道に落ち栗拾う女「今朝の散歩は大当たり」と言う
 夜となれば耳鳴りのする身となりて意外に早い老化に戸惑う
 弟はつるはし肩に花をつむ工事現場に出かける前に
 十二センチの靴に大地を踏みしめて幼は歩む初めての秋
 夕顔の五十三個咲きたりと夜気をまといて夫の入りくる
 老人のカラオケクラブの大会に卒寿の君は「昴」を歌う
 台風過ぎ秋日差す畑白菜のかぶりし泥に水かけ流す
 思春期のわが息に亡夫の手渡せし「道は開ける」今に残れり
 芝栗にからみて咲きし葛の花宙に揺れつつ紫こぼす
 松山の鍋焼きうどんの忘れがたし路地の奥なる「ことり」といふ店

澤近 正弘
 扇野八代生
 藤井 擴
 野崎 幸子
 前田 充
 河上 明美
 前田 昭夫
 松本マス子
 水野美代子
 岩村千代子
 前田 知子

※上記情報は、広報紙掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。